

平成 30 年度

学校教育部の取り組み実績

<部の構成>

学務課、教職員課、児童生徒支援室、教育指導課、教育研修課

1. 重点施策・事業

(1) 学力向上の取り組みの推進

方向性	「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりと個に応じた家庭学習を推進し、子どもたちの確かな学びと自立の力を育みます。
取り組み	<p>【学力の向上】</p> <p>全中学校区にコーディネーターを配置し、学力向上委員会や教科会、学年会等の充実を図り、組織的な取り組みを推進するとともに、学力向上・授業づくりに高い見識を有する学識経験者を招聘し、教員の授業力向上を図ります。</p> <p>少人数学級編制や習熟度別少人数指導等により、きめ細かな指導の充実を図ります。また、自学自習力支援システムを効果的に活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着を図ります。</p> <p>【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】</p> <p>全国学力・学習状況調査実施後すぐに、教員が問題分析・自校採点及び分析を行い、学校全体として課題及び個々の課題にも正対した取り組みを行うとともに、教科会・学年会における授業研究の推進を図ります。</p> <p>また、児童・生徒一人ひとりの課題を踏まえ、宿題や自学自習ノート等、家庭における学習習慣の充実に努めます。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査の平均正答率：全国平均以上及び対前年度比向上・児童・生徒質問紙調査「国語／算数・数学の授業がわかる」に対して肯定的回答をした児童・生徒の割合：対前年度2ポイント向上（各校種各教科） <p>平成 30 年度当初予算：50,516 千円</p>
実績	<p>【学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・全中学校区に学力向上に特化したコーディネーターを配置するとともに、学力向上委員会や教科会、学年会など校内組織体制の充実を図りながら、授業改善や少人数指導など学力向上に向けた取り組みを推進しました。・学力向上・授業づくりに高い見識を有する学識経験者として、国立教育政策研究所総括研究官 千々布敏弥氏を招聘し、研修や指導・助言を受けることで教員の授業力向上に努めました。・自学自習力支援システムを効果的に活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着に努めました。

	<p>【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本市の学力状況について、全国平均との比較・分析等を行い、成果と課題をより具体的に整理した分析結果及び改善方策の公表を行いました。 ・全国学力・学習状況調査実施後すぐに、教員が問題分析・自校採点及び分析を行い、学校全体として課題に正対した取り組みを行い、教科会・学年会における授業研究の推進を図りました。 ・児童・生徒一人ひとりの課題を踏まえ、宿題や自学自習ノート等、家庭における学習習慣の充実を図りました。また、「自主学習ノートのすすめ」を作成し、平成31年1月に配布しました。 <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の平均正答率：小学校 59.4%（全国平均 60.1%・全国平均を1とした場合の対前年度比▲0.1%）・中学校 64.2%（全国平均 63.3%・全国平均を1とした場合の対前年度比▲0.7%） ・児童・生徒質問紙調査「国語／算数・数学の授業がわかる」に対して肯定的回答をした児童・生徒の割合：小学校 86.7%（平成29年度 83.8%）・中学校 76.0%（平成29年度 76.9%）※平成30年度は「国語」の項目が削除されたため、「算数・数学」の項目のみ記載しています。 <p>平成30年度決算：47,930千円</p>
<p>取り組みに対する達成状況</p>	<p>【 ○ 】</p>

<p>（2）英語教育の推進</p>	
<p>方向性</p>	<p>新学習指導要領の全面实施を見据え、児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。</p>
<p>取り組み</p>	<p>【英語教育指導助手の配置】 全中学校に外国人英語教育指導助手（NET）、全小学校に英語が堪能な日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、英会話や英語を使った体験的な学習の充実を図ります。</p> <p>【指導体制の強化】 小学校に英語専科教員を新たに配置するとともに、日本人英語教育指導助手（JTE）を拡充し、小学校外国語活動の指導体制の強化を図ります。</p> <p>【外部検定試験の活用】 英語の4技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）をバランスよく育成するため、全市立中学校第2学年の全生徒を対象に4技能に対応した外部検定試験を実施し、その結果分析をもとに授業改善、個に応じた指導及び生徒の学習意欲の向上に活かします。</p> <p>【大学との連携】 関西外国語大学と連携し、留学生との交流等英語を使った体験的な活動の充実を図り、</p>

	より実践的な英語力を育みます。 <<目標値>> ・「英語の授業が楽しい」と答えた児童・生徒の割合：90.0%（平成29年度85.5%） ・大阪府中学生チャレンジテスト（第2学年の平均正答率）：対前年度比向上 ・外部検定試験結果を活用して、国際基準CEFR Level A1に中学校卒業段階で到達した生徒の割合：50.0%（第2期教育振興基本計画における成果指標を踏まえた英語力の目標値）以上 平成30年度当初予算：159,696千円
実績	<p>【英語教育指導助手の配置】 英語を使った体験的な学習を通して、英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、全中学校に各校1名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、児童・生徒の「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業を実施しました。</p> <p>【指導体制の強化】 小学校に英語専科教員を新たに4人配置するとともに、日本人英語教育指導助手（JTE）を拡充し、小学校外国語活動の指導体制の強化を図りました。</p> <p>【外部検定試験の活用】 全市立中学校第2学年の全生徒を対象とした外部検定試験を10月29日・30日・31日に実施し、スコアや付属の教材を活用して、生徒の英語学習への意欲向上を図りました。</p> <p>【大学との連携】 関西外国語大学との連携や枚方市英語教育指導助手（NET）の参加による英語を使った体験的な活動として、中学生対象の「枚方英語村」を10月20日に実施しました。また、平成31年1月26日には、小学校第5・6学年を対象にした「枚方英語村」を実施しました。</p> <p><<実績値>> ・「英語の授業が楽しい」と答えた児童・生徒の割合：85.5% ・大阪府中学生チャレンジテスト（第2学年の平均正答率）：54.2%（平成29年度63.6%） ・外部検定試験結果を活用して、国際基準CEFR Level A1に中学校卒業段階で到達した生徒の割合：45.4% 平成30年度決算：146,730千円</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	

（3）読書活動の推進	
方向性	児童・生徒の言語能力を育むため、全中学校区に配置した学校司書と司書教諭が連携して、義務教育9年間を見通した読書活動の充実を図ります。

<p>取り組み</p>	<p>市立図書館と連携した学校図書館の環境整備、児童・生徒の読書習慣の確立、調べ学習等授業における学校図書館の活用を推進します。</p> <p>特に、本年度は、社会教育部と連携して全中学校が参加する「ビブリオバトル」を実施します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の読書量（1日10分以上の児童・生徒の割合）：対前年度5ポイント向上（平成29年度枚方市立小学校60.5%・中学校46.8% 全国小学校63.3%・中学校51.4%） ・学校図書館や公立図書館の利用率：対前年度5ポイント向上（平成29年度枚方市立小学校64.8%・中学校36.8% 全国小学校67.6%・中学校42.0%） ・「ビブリオバトル」（市）参加生徒の校数・人数：19校×3名（平成29年度8校18名）
	<p>平成30年度当初予算：56,084千円</p>
<p>実績</p>	<p>児童・生徒の言語能力を育むため、全中学校区に学校司書を配置し、学校司書と司書教諭が連携して、児童・生徒の読書習慣の確立、調べ学習等授業における学校図書館の活用を推進しています。また、市立図書館と連携して学校図書館の環境整備を行いました。</p> <p>「中学生のビブリオバトル」は、平成31年3月17日に実施しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の読書量（1日10分以上の児童・生徒の割合）：小学校59.9%・中学校47.3%（全国小学校66.2%・中学校53.5%） ・学校図書館や公立図書館の利用率：平成30年度は全国学力学習状況調査児童・生徒質問紙より設問が削除されました。 ・「ビブリオバトル」（市）参加生徒の校数・人数：17校・47名
	<p>平成30年度決算：59,426千円（※補正予算等の対応あり）</p>
<p>取り組みに対する達成状況</p>	<p>【 ○ 】</p>

<p>（４）体力向上の取り組みの推進</p>	
<p>方向性</p>	<p>児童・生徒の体力向上に向けた取り組みを計画的に推進します。</p> <p>また、中学校部活動について生徒の心身のバランスが取れた成長を促す観点から活性化と充実を図ります。</p>
<p>取り組み</p>	<p>【体力の向上】</p> <p>各学校で、全児童・生徒を対象に体力テストを実施し、その結果に基づいて体力向上推進計画を作成・実践するとともに、大阪体育大学と連携して、授業改善をはじめ児童・生徒の体力向上に向けた取り組みを推進します。</p> <p>また、小学生対象の陸上競技大会、駅伝競走大会、水泳記録会等を通じて児童の体力向上を図ります。</p>

	<p>【中学校部活動】 専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣し、指導の充実を図ります。また、適切な練習時間や休養日を設定するとともに、「国のガイドライン」を踏まえ、適切な運営・効果的な活動等を行うために、「本市の部活動ガイドライン」を作成します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの各種目の結果の平均値：全国平均（推定値）以上 ・「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童・生徒の割合：90.0%（平成 29 年度 86.0%） <p>平成 30 年度当初予算：22,131 千円</p>
実績	<p>【体力の向上】 各小中学校で、全児童・生徒を対象に体力テストを実施しました。その結果に基づいて体力向上推進計画を作成・実践するとともに、大阪体育大学と連携した体力テストの分析結果を体力向上担当者に発信しました。</p> <p>また、小学生対象の陸上競技大会を 10 月 14 日、駅伝競走大会を 11 月 17 日に開催しました。</p> <p>【中学校部活動】 各中学校に専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣し、部活動の活性化と充実を図るとともに、顧問教員の負担軽減を図りました。（年間派遣回数：5,553 回）</p> <p>また、適切な練習時間や休養日を設定した「枚方市中学校部活動方針」を平成 31 年 2 月に策定しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの各種目の結果の平均値：全国平均値を上回った種目 小学校 1 種目（50m 走）/8 種目・中学校 1 種目（50m 走）/9 種目 ・「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童・生徒の割合：85.7% <p>平成 30 年度決算：18,405 千円</p>
取り組みに対する達成状況	【 ○ 】

（５）生徒指導の充実	
方向性	<p>学校・家庭・地域・関係機関が連携し、個に応じたきめ細かな指導の充実に努め、いじめ・暴力行為・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行います。</p>
取り組み	<p>これまで発生したいじめの事象の検証結果等に基づき、「枚方市生徒指導マニュアル（いじめ防止編）」の見直し、実用性のあるいじめ対処のためのマニュアルの作成、事例研究を含む研修を実施し、教職員の指導力向上を図ります。</p> <p>また、必要に応じて、学校に学識経験者、心理・福祉の専門家等で構成する「緊急支援チーム」を派遣する等、いじめを受けた児童・生徒やその保護者に寄り添い、適切な対応に努めます。</p>

	<p>さらに、気軽に相談できる手段として、SNS を活用した教育相談体制の実施に向けて検討を行います。</p> <p>各学校においては、生徒指導主事・主担者を核とした組織的な対応を行うとともに、家庭訪問等を通じて保護者との信頼関係の構築、学校アセスメントシートを活用した客観的な状況把握・改善に努めます。</p> <p>また、子どもを取り巻く環境を踏まえ、教育と福祉が緊密な連携のもと、さまざまな視点から子どもたちを継続して見守り、その成長を支える取り組みの充実を図ります。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枚方市立小中学校におけるいじめの解消率：100% ・暴力発生件数：前年度（小 80 件・中 214 件）より 10.0%減少 <p>平成 30 年度当初予算：118,066 千円</p>
<p>実績</p>	<p>9月に「枚方市いじめ防止基本方針」を改定し、「枚方市いじめ対応マニュアル」の作成等に取り組みました。マニュアルは、各学校に通知し、学校が組織的に対応できるよう働きかけを行いました。暴力行為の件数については、中学校が減少したものの、小学校で大幅に増加しました。繰り返して暴力行為をする児童への対応とともに、単発で暴力行為が発生している学校数が増えていることから、より生徒指導の体制を強化し、組織的に対応していくことが喫緊の課題となります。</p> <p>また、元校長やスクールソーシャルワーカー、警察OB等で組織する学校支援チームを各学校へ派遣し、専門的な分野からのアドバイスをを行い、学校の課題解決能力の向上に努めました。</p> <p>さらに、SNS を活用した教育相談体制については、すでに実施している自治体から情報収集を行いました。</p> <p>《平成 30 年度実績》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枚方市小中学校におけるいじめの解消率：80.6% ・暴力発生件数：小学校 161 件、中学校 159 件（平成 29 年度より 8.8%増） <p>平成 30 年度決算：72,570 千円</p>
<p>取り組みに対する達成状況</p>	<p>【 △ 】</p>

<p>(6) 支援教育の充実</p>	
<p>方向性</p>	<p>すべての幼児・児童・生徒、教職員及び保護者並びに地域に対して、支援教育の理解と啓発を推進し、インクルーシブ教育システム（※）の理念を踏まえ、すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくり・集団づくりの充実を図り、障害のある子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。</p> <p>※インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が、同じ場で、可能な限りともに学ぶ仕組みのこと。</p>
<p>取り組み</p>	<p>支援教育コーディネーターの活動時間を確保するために非常勤講師を配置し、校内の支援教育体制を充実させるとともに、支援教育に関する専門家等を学校園に派遣し、</p>

	<p>教職員への指導・助言を行います。</p> <p>また、支援学級に試験導入したタブレット端末を活用して、視覚支援等による理解力の向上について効果の研究を行います。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する配慮を要する児童・生徒の個別の教育支援計画作成状況：平成30年度 90.0%（平成29年度 86.7%） <p>平成30年度当初予算：204,321千円</p>
実績	<p>すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点から、支援教育に関する専門家の派遣、学校看護師・介助員の配置、支援教育コーディネーターを支援するための非常勤講師の配置、備品の購入や貸与に努めました。また、小学校2校において、カメラ機能等を活用した視覚支援等、タブレット端末の活用方法についての効果検証を行い、支援教育に係る環境整備を進めました。</p> <p>《平成30年度実績》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する配慮を要する児童・生徒の個別の教育支援計画作成状況：平成30年度実績 94.5% <p>平成30年度決算：183,825千円</p>
	<p>取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】</p>

(7) 少人数学級充実事業の推進	
方向性	<p>小学校第1学年から第4学年までを支援学級在籍児童を含む35人学級編制、第5・第6学年については、支援学級在籍児童を含む40人学級編制を実施します。</p>
取り組み	<p>本市独自の小学校第4学年までの少人数学級編制を、引き続き、実施するとともに、小学校第5・第6学年については新たな学級編制のもとで、習熟度別指導や一部教科担任制等、さまざまな指導方法・指導形態の工夫により、児童の「生きる力」の育成を図ります。</p> <p>なお、対象となる学校の増学級数に対して任期付教員を配置します。</p> <p>本年度は、少人数学級編制の効果検証について、これまでの「基礎学力のたしかめテスト」に加えて、第4学年から実施する「学年末テスト」を活用することによってより適切な検証を行い、次年度以降の方向性を検討します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力のたしかめテストにおいて到達基準に達した人数の割合：対前年度比向上 ・学年末テストにおける全国調査の過去問題を活用した「課題に正対した問題」の平均正答率：対前回比向上 <p>平成30年度当初予算：286,974千円</p>

実績	<p>小学校第1学年から第4学年までを支援学級在籍児童を含む35人学級編制、第5・第6学年については、支援学級在籍児童を含む40人学級編制を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力のたしかめテストにおいて到達基準に達した人数の割合：86.6%（平成29年度86.0%） ・学年末テストにおける全国調査の過去問題を活用した「課題に正対した問題」の平均正答率：48.5%（平成29年度44.5%） <p>平成30年度決算：305,057千円（※補正予算等の対応あり）</p>
	<p>取り組みに対する達成状況</p>
【 ◎ 】	

(8) コミュニティ・スクールの推進	
方向性	<p>小学校に順次設置し、地域全体で教育に取り組む体制を構築します。</p>
取り組み	<p>保護者や地域住民等から構成され、学校運営や運営への必要な支援に関して協議する枚方におけるコミュニティ・スクールを小学校に順次に設置します。また、研究会等を開催し、枚方におけるコミュニティ・スクールの実践事例の紹介、設置校の取り組みの発信を行い、「地域とともにある学校づくり」を推進します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校質問紙調査「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して強い肯定的回答の割合（設置校）：100% <p>平成30年度当初予算：834千円</p>
実績	<p>枚方におけるコミュニティ・スクールを小学校5校（枚方第二・香里・氷室・山之上・川越小）において設置しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校質問紙調査「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して強い肯定的回答の割合（設置校）：100% <p>平成30年度決算：454千円</p>
<p>取り組みに対する達成状況</p>	
【 ◎ 】	

(9) 就学前の教育と保育のあり方に係る一体的・総合的なプランの策定	
方向性	<p>幼保連携のもと就学前の教育と保育のあり方に係る一体的・総合的なプランを作成します。</p>
取り組み	<p>保育所の入所者数は増加傾向にある一方、市立幼稚園については定員に満たない状況にあることを踏まえ、市の喫緊の課題である待機児童対策推進策、就学前児童の教育と保育のあり方に係る方向性を示した一体的・総合的なプランを策定します。</p>

実績	待機児童対策などの推進や今後の公立施設のあり方を示す「就学前の教育・保育施設に係るひらかたプラン～公立施設の今後のあり方について～」を平成30年11月に策定しました。
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

2. 行政改革・業務改善

◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
35. 市立幼稚園の効率的・効果的な配置	幼保連携のもと就学前児童の教育と保育のあり方に係る方向性を示した一体的・総合的なプランを策定します
実績	平成30年11月に「就学前の教育・保育施設に係るひらかたプラン」を策定し、「推進する取り組み」として、市立幼稚園における3歳児保育の実施と預かり保育の拡充を示しました。また、市立幼稚園においては、教育の需要を見定めた上で、整理・集約を進めていく必要があることから、蹉跎西幼稚園については、園児数や施設の状況等を踏まえ、令和2年度末で閉園することとしました。
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
36. 交通専従員配置事業の見直し	通学児童の安全確保を第一に考え、関係機関と連携し、業務委託の拡大又は毎年実施する現地調査をもとに、必要な箇所には継続して配置し、交通量が減少する等、原因が解消された箇所については、順次、廃止も含めた見直しを行います。
実績	交通状況調査により配置箇所の実態把握を行い、通学児童の安全確保を第一に考え、関係機関と連携し、業務委託の拡大又は交通量が減少した箇所など、事業目的の原因が解消された箇所から順次廃止も含めた見直しを進めます。 <交通専従員・交通指導員配置箇所数/配置人数> 平成26年度 29箇所/59人
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
53. 教職員の資質・指導力の向上	<p>「経験の浅い教職員及びミドルリーダーの育成」「学力向上に向けた授業づくり・授業改善の推進」「授業研究・研修への支援の充実」を図るため、本市教職員研修計画に基づき、教職員の経験年数や職務に応じて行う「基本研修」及び教育課題や教科等の専門性を高める「専門研修」を実施します。</p> <p>その中で、「授業力向上研修」において、小中学校別の教科指導の研修を実施し、各校における教科会・学年会の一層の充実を図ります。</p> <p>特に、中学校の教科代表を対象に、全体講座を新設し、年3回実施します。</p>
実績	<p>『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ」をテーマに、本市の教育課題に応じた独自のカリキュラムのもと、初任者研修や10年経験者研修をはじめ、教職員の経験・職務に応じた基本研修及び教育課題や教科等の専門性を高める専門研修を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図りました。特に水泳指導研修やプログラミング教育研修、英語活用力向上研修等の実技研修を新設し、教員の実践的指導力の向上に重点的に取り組みました。平成31年3月末時点で基本研修を164回、専門研修を92回実施しました。また、指導主事、教育推進プランナーによる経験の浅い教員の研究授業への指導助言及び学校運営等への支援に加えて、校内の研究体制づくりや教員の授業改善、子どもたちの学力向上に向け、指導主事、教育推進プランナー等が学校を訪問する「校内研究支援」（授業研究・授業改善、学校支援）を1,293回実施し、授業改善・学力向上の取り組みの推進を図りました。</p>
<p style="text-align: center;">取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】</p>	

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
業務改善プロジェクト・チーム設置	<p>学校教育部次長をリーダーとして、各課の統括指導主事・課長代理等によるプロジェクト・チームを設置し、文部科学省指定「学校現場の業務改善加速事業」の検証や先進地域の取り組み事例の研究、各種通知・報告等の内容精選等について検討し、学校園並びに教育委員会事務局の業務改善を推進します。</p>
実績	<p>プロジェクトチーム員会議を8回実施。現場の教頭にもヒアリングを行い学校園へのメール配信方法の改善、教育委員会公用車の予約方法についての提案、業務アシスタントや夏季閉庁日など学校現場の業務改善について意見交換を行いました。</p>
<p style="text-align: center;">取り組みに対する達成状況 【 ○ 】</p>	

3. 予算編成・執行

- ◆施策・事業の計画・執行にあたっては、国庫補助金、大阪府補助金・委託金を活用する等、より効率的な予算編成に努めます。

実績	<p>課題を抱えた子どもを支援するため、スクールソーシャルワーカー活用事業及び枚方市学校いじめ対策審議会委員等外部専門家に係る経費に、国の教育支援体制整備事業費補助金（いじめ対策・不登校支援等総合推進事業 380 万円）を活用しました。また、「心の教室相談員」配置事業、不登校支援協力員配置事業等に係る経費に、国の子どもの貧困緊急対策事業費補助金（子どもの未来応援コーディネート事業 1,102 万 9,000 円）を活用し、教育相談体制の充実を図りました。さらに、学校園で医療的ケアを行う学校看護師配置に係る経費等に、国の教育体制整備事業費補助金（切れ目ない支援体制整備充実事業 779 万 4,000 円）及び府の市町村医療的ケア体制整備推進事業補助金（423 万 5,000 円）を活用し、支援教育の充実を図りました。</p> <p>また、文部科学省委託事業「学校現場における業務改善加速事業」を受託し、楠葉中学校区 3 校において、業務アシスタントの導入、先進地域の視察、業務改善アドバイザーを招聘して業務改善研修を実施するなど、委託金（60 万 9310 円）を有効活用した実践研究を進めるとともに、文部科学省委託事業「道徳教育推進事業」を受託し、蹉跎西小学校及び長尾西中学校において、指導方法や評価方法について学識経験者の招聘による校内研修や模擬評価等を実施するなど、委託金（377,429 円）を有効活用した実践研究を行いました。</p> <p>他にも、コミュニティ・スクール事業等の実施に係る学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（コミュニティ・スクール事業 67,000 円、外部人材活用事業 4,246,000 円、放課後自習教室事業 11,377,000 円）を確保するなど、可能な限り国庫補助金、大阪府補助金・委託金を有効活用し、効率的な予算執行に努めました。</p>
	取り組みに対する達成状況

4. 組織運営・人材育成

- ◆専門的な知識や技術、国や府の動向・先進事例等を習得・把握するために研修を実施し、職員力の向上に努めます。

実績	<p>指導主事研修会を年 5 回実施し、外部講師を招聘し講演いただくなど、専門的な知識や技術の習得を図り、経験の浅い指導主事の育成を図りました。</p>
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

- ◆ 学校教育部各課の緊密な連携を図り、効率的・効果的な組織運営に努めます。

実績	部内課長以上が出席する定例の部内会議や各担当のミーティング等により、各課が情報共有を進め、効率的・効果的な組織運営に努めました。
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

- ◆ 学校教育部職員の健康管理とメンタルヘルスケアに努めるとともに、「働き方」に関する意識改革を進め、時間外勤務の縮減に努めます。

実績	健康診断の受診、ストレスチェックの受検を促し、職員の健康管理に努めました。また時間外勤務の縮減については、「働き方」に関する意識改革を進めるとともに事務の効率化等に努め、引き続き取り組んでいきます。
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	

5. 広報・情報発信

- ◆ ホームページ・広報ひらかた等を活用し、学校教育部の取り組みや学校園の教育活動の積極的な発信に努めます。

実績	学力向上に向けた取り組みや小中一貫英語教育など枚方の学校教育の取り組みや、各学校園の特色ある取り組みについてホームページ、広報ひらかた、学校だよりを通じて広く情報発信をしました。
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

- ◆ 学校教育における3年間の取り組みをまとめた「(仮称)ひらかたの教育の取組」の発行や「枚方市教育フォーラム」を開催し、より多くの市民に枚方の教育を発信します。

実績	「枚方市教育フォーラム」は大阪北部地震の影響で会場である枚方市民会館大ホールが使用できなくなり、開催中止となりましたが、準備段階でFMひらかたの放送を通じて、取組の方向性を市民に発信することができました。「(仮称)ひらかたの教育の取組」については、「枚方市教育フォーラム」の内容を含めて作成予定であったため、未発行となりましたが、来年度の発行に向け、準備を進めていきます。
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	